

日 時：平成28年7月14日（木）10時45分～11時30分

場 所：北2病棟多目的ホール他

指導者：大島 由紀(T1) 岩谷恵美子(T2) 諏訪 央憲(T3)

田中 佑可子(T4)

1 題材名 「朝の活動・朝の会」

2 目 標

- (1) 登校準備や朝の活動を通し、生活のリズムや生活習慣の形成を図る。
- (2) 友達や教師からの関わりや様子に関心をもち、視線や体の動き、発声等で応じる。

3 児童生徒と題材

(1) 児童生徒について

本グループは、小学部1年女子1名、中学部3年男子1名、高等部1年女子2名の計4名である。全員が独立行政法人国立病院機構あきた病院の重症心身障害児（者）病棟に長期入院しており、この内2名は過年度卒業生である。4名の内3名は学習場所に制限がなく、1名は常時人工呼吸器を使用しているため体調の安定を図りながらベッドサイドか病棟内で学習を行っている。朝の会は曜日によって4名で行う日と、1名の児童が教師とベッドサイドで個別に行う日がある。

覚醒レベルが低く、日中に眠ってしまう児童生徒もいるため個別の配慮が必要であるが、いずれの児童生徒も身近な教師からの関わりに視線の動きや発声で応えたり、笑顔で応じたりするようになってきている。

(2) 題材について

本題材は、個々の児童生徒のその日の体調や課題にそって行う朝の活動と、友達や教師と一緒に朝の会に分かれている。前半の朝の活動では健康観察を十分に行い、教師と一対一でじっくり関わり合いながら登校準備や身だしなみを整える活動を通して、生活のリズムや生活習慣の形成を図り、一日の始まりに期待感をもつことをねらいとしている。また、体操を行うことで楽しみながら体を動かし、覚醒状態を維持したり、自分自身の身体各部位への気付きを促したりすることが、自発的な動きや発声につながるのではないかと考えている。

後半の朝の会では、個々の児童生徒が好きなことや得意な動きを生かした活動を繰り返し行う中で、自分の気持ちを視線や体の動き、発声で伝える姿を目指している。言葉掛けや支援を精選しながら繰り返し活動を行う中で見通しをもって活動に参加し、友達の発声や動き、教師の言葉掛けに注目するようになるのではないかと考える。また、それぞれの児童生徒が係活動や呼名で友達に注目される場面を適宜設定し、自分の得意な感覚器官や動きを生かしながら活動に参加したり、返事をしたりすることで小集団の中で自分の役割を果たしたり、関わりに応じたりする力が身に付くのではないかと考え本題材を設定した。

(3) 指導に当たって

- ・健康状態や情緒の安定を図ることができるように、朝の会の活動では個々の児童生徒の体調や様子、課題に合わせてじっくりと関わり合いながら繰り返し活動に取り組む。
- ・覚醒を促したり身体各部位への意識を高めたりリラックスしたりすることができるように、場を変えて車椅子から降ろしいろいろな姿勢にして体操を行う。
- ・活動の内容の違いや区切りが分かるように活動ごとに場や体の向き、姿勢を変える。
- ・自発的な動きや発声を引き出し、主体的に会を進行することができるように場面に応じて言葉掛けを減らし、身振りやサイン等で合図をする。
- ・友達への関心を高めながら関わりを広げることができるように、お互いの様子が見えるような配置にする。
- ・自分から声を出して歌ったり、歌に合わせて体を動かしたりすることができるように、個々の児童生徒の前でギターの演奏を止めたり、実際に触れたりする場面を設定する。

4 指導計画

・「朝の活動・朝の会」(年間を通して実施)・・・総時数175時間(本時57/175)

朝の活動	朝の会	担 当
・健康観察 ・病棟内、自室での挨拶 ・顔や手の清拭、マッサージ、身だしなみ ・今日の日付や天気、予定の確認	・集合 ・挨拶 ・呼名 ・歌の準備、合図 ・歌	【司会】 C 【楽器の準備】 B 【歌の合図】 D

5 本時の計画

(1) 本時のねらい

- ①登校準備や身だしなみを整える活動を通して学習の始まりが分かり、教師の関わりを受け入れ一緒に活動する。
- ②友達や教師からの関わりや様子に関心をもち、視線や体の動き、発声等で応じようとする。

(2) 個別の実態及びねらい

児童生徒 学年・性別	実 態	ね ら い
A 小1・女	・登校時の覚醒状態が安定しないこともあるが、病棟内を散歩したり身だしなみを整えたりする活動を行うことで、しっかりと覚醒するようになってきている。マッサージや手遊びなどを好み笑顔を見せる。 ・教師が近づくと気配を感じて顔を向ける。身近な教師が分かり、落ち着いて一緒に学習することができるようになってきた。	①手や足の指、腰揺らしのマッサージに心地良さを感じ、口元をゆるめて気持ちを表現する。 ②名前を呼ばれたら声のする方向に顔を向けて口を開けて返事をする。
B 中3・男	・覚醒状態が不安定な日もあるが、顔や手の清拭、マッサージを行うことで、長時間覚醒した状態で朝の会に参加している。 ・朝の会ではギターケースを腕で引っ張り、開ける係を担当している。自ら腕を動かして紐を引っ張ることはまだ難しいが、教師の呼びかけやタッピングに応じて自分から手を動かすようになってきている。	①顔拭きや手洗いをを行い、覚醒状態を維持しながら朝の会に参加する。 ②教師の言葉掛けや腕などへのタッピングに応じて、腕を動かしギターケースを開ける。
C 高1・女	・教師の言葉掛けに応じて笑顔を見せたり挨拶をしようとしたりするようになってきた。やマッサージを好み、体に触れると笑顔になったり声を出したりして喜びを表現する。 ・朝の会では司会を担当している。繰り返し活動に取り組むことで、見通しをもつようになり挨拶をする場面などでは教師の言葉掛けを聞き発声することが増えてきた。	①教師の言葉掛けを聞きながら手足の緊張をゆるめたり楽しい気持ちを発声や表情で表したりする。 ②「どっちですか」の質問に応じて名前を呼ぶ友達の写真を見たり、発声で応えたりする。
D 高1・女	・大きな音や急に視界に入ってくるものや接触等に対して驚愕反射が見られるが各活動には少しずつ慣れてきている。身だしなみを整える場面では言葉掛けに応じて笑顔が見られるようになってきた。 ・係活動では腕を動かしスイッチを押すことが分かり意欲的に取り組んでいる。友達や教師と一緒に活動に期待感をもって臨み、喜びを大きな発声で表現する。	①顔や手の清拭を心地良く感じ、笑顔や発声で気持ちを表現する。 ②自分から腕を動かしてスイッチを押す、歌の始まりの合図を出す。

（３）学習過程

時間	学 習 活 動	指導の手立て及び留意点				準備物
10:45 (20 分)	1 登校準備をする ・健康観察 ・水分補給 ・顔や手の清拭 ・身だしなみ ・係活動の準備	A (T 1)	B (T 3)	C (T 4)	D (T 2)	・おしぼり ・水分 ・写真
11:05 (10 分)	2 朝の運動 ・ふれあいリラックス体操	・安定した姿勢を保持し、安心して活動に取り組めるように、個々の生徒の体の状態に合わせてバスタオルやクッションを頭部や膝に置く。 ・ゆったりとした気持ちでリラックスして体操を行うことができるように、個々の児童生徒の好きな関わりや言葉掛けをしながら手足を動かしたり、体に触れたりする。				・セラピーマット ・クッション ・バスタオル ・CDラジカセ ・CD
11:15 (15 分)	3 朝の会を行う ＜司会：C＞ (1) 朝のあいさつ (2) 返事 (3) 朝の歌 ＜ギターケースを開ける：B＞ ＜音楽スタートの合図：D＞	・朝の会の始めに気付くことができるように、「おはよう」のCDを流す。全員準備ができ、落ち着いたことを確認したらBGMを止める。(T 4) ・活動への期待感を高め、友達や教師の様子を見たり、関わり合ったりすることができるように児童生徒を円座に配置する。				・CDラジカセ ・CD ・歌の合図スイッチ ・ギターケース ・顔写真
		・覚醒状態がよくない場合にはパルスオキシメーターで心拍数を確認し、100以下の場合には体にタッピングしながら名前を呼んだり周囲の様子を伝えたりして覚醒を促す ・ あいさつをすることや名前を呼ばれていることが分かるように、肩に触れて教師のいる方向を知らせ、顔を向けたことを確認してからゆっくりと名前を呼んだりあいさつをしたりする。	・名前を呼ばれていることが分かり返事ができるように、顔を近づけて視線を合わせたり、手を優しく握ったりして応答待つ。 ・自分から手を動かしてギターケースを開けることができるように、軟らかい素材でできた音の出る玩具とケースを紐でつなぐ。 ・自分から動きがないときは、持ち手に教師が手を添えたり体に触れたりしながら一緒に紐を引っ張る。	・自分から声を出して会の進行ができるように、言葉の始めを言ったり口の形を見せたりする。 ・ 呼名する順番を選択することができるように、「どちらですか」と質問をし、十分に注視を促してから顔写真を提示する。視線の動きや発声で選ぶことができるように、写真は左右離して提示し、応答するまでしばらく待つ。	・呼名に発声で応じたらすぐに称賛の合図をし、応答がないときは、喉に軽く触れて待つ。 ・友達の様子に注目することができるように言葉掛けを控えたり車椅子の向きを適宜変えたりする。 ・ スイッチを押し音楽スタートの合図を出せるように、T3に視線が向いたら定位置にスイッチを設置して待つ。自分からスイッチを押さないときはスイッチを見せる。	
		・楽しみながら手を動かしたり「おはよう」と歌ったりすることができるように、手を握って上下に動かしリズムをとる。	・ ギターの音を楽しめるように近くでギターを鳴らしたり、弦に触れたりする場面を設ける。 ・歌のリズムを感じられるように、体に軽くタッピングする。	・友達や教師とリズムを感じ、楽しく歌うことができるように、体に軽く触れたり語りかけるように歌ったりする。	・リズムを感じ一緒に歌うことができるように、軽くタッピングをする。 ・「おはよう」とタイミングよく発声することができるように、T3は近づいてから名前を呼び視線を合わせる。	

（４）評価

- ＜生徒＞・個々のねらいは達成できたか。
- ＜教師＞・個々の児童生徒が安定した気持ちや健康状態を維持し、期待感や意欲をもつことができるようなやりとりであったか。
- ・児童生徒が見通しをもって活動に参加し、関わりに応じて役割を果たしたり、自分の気持ちを表現しようとしたりすることができるような授業展開であったか。

（５）配置図

